

令和 4 年度 東京都立八王子盲学校 学校経営報告

校長 安田 咲登子

I 今年度の取組と自己評価

「一人一人の希望の実現に向けて、一人一人が全力を尽くす学校」を「目指す学校」として掲げた。今年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、学習活動や学校行事を柔軟に計画・実施してきた。重点となるキーワードを「継承」「精選」「希望」とし、視覚障害教育の専門性に基づく指導の継承と、校舎改築業務とも関連した精選に取り組んだ。

1 幼児・児童・生徒の確かな成長を支える

ア 幼児・児童・生徒理解

- ① 実態把握（視機能、学力等）を個別指導計画や年間指導計画などの諸計画に反映し、日々の指導に取り組むことができた。
- ② 週ごとの指導計画の作成と評価を通して、成果と課題を踏まえた計画や手だての修正などを随時行い、指導の一層の充実を図ることができた。
- ③ 学校生活支援シート、個別指導計画の作成と評価において、学期に1回以上の保護者面談等を通して十分な連携と共通理解を図るよう努めた。
- ④ 相互に他学部・寄宿舍参観を実施し、参観シートによって学部連携・学校と寄宿舍の連携を深め、共通理解のもと指導にあたった。

イ 学習指導

- ① 幼児・児童・生徒が成果を実感できるような指導を行うとともに、高等部における新学習指導要領の段階的实施を踏まえ、3観点による評価を意識して学習活動を推進することができた。
- ② TOKYO ACTIVE PLAN for studentsを踏まえ、体育・保健体育の指導の中で、視覚障害スポーツを年間指導計画に位置付け、スポーツライフの推進に努めた。
- ③ 適切な援助依頼の方法の取得と関連して、様々な困難やストレスの対処方法を身に付けるための教育（SOSの出し方に関する教育）を、学部ごとに発達段階に応じて行った。
- ⑤ 点字・漢字コンテスト、外部の検定に多くの児童・生徒が取り組んだ。合格や入賞など、多くの児童・生徒が優秀な成績を収めることができた。
- ⑥ 授業参観は感染症対策を講じた上で実施し、多くの保護者が来校された。幼児・児童・生徒の学習活動を御覧いただき、今後の学習指導への共通理解へとつなげることができた。
- ⑦ 言語活動・読書活動充実事業の指定を受け、図書委員会中心に取り組んだ。5月と11月には読書週間を設けた。また、図書室だよりの発行や読書コーナーの設置、図書とのコラボ給食などを通して、読書活動の充実を図った。

ウ 生活指導

- ① いじめ・体罰の未然防止に向けて、聞き取りや質問紙による状況把握を年3回行った。また、年間を通じてカウンセラーを導入し、希望者に対して面談や支援を行った。
- ② 安全教育プログラムの内容を踏まえて、月1回及び随時の安全指導を行った。セーフティ教室は、幼児・指導・生徒の発達段階に応じて、学部単位で指導を行った。
- ③ 避難訓練は、学校、寄宿舍において様々な場面を想定して各月に実施した。また、中学部の生徒を対象に一泊二日宿泊防災訓練を実施し、中学部生徒の防災意識を高めた。
- ④ 保護者との連携のもと、食物アレルギー等への具体的対応に組織的かつ確実に取り組んだ。
- ⑤ 視覚障害児・者にとって安全な校内環境整備に向け、共有部の動線の確保、不要物品の廃棄、危険個所の点検を随時行った。

エ 進路指導

- ① 職業や進路に関する見学・体験は感染症対策を講じながら実施した。また、校内における日々の係活動や分担された役割の遂行などを通して、キャリア教育の充実を図った。
- ② 中学部及び高等部普通科（3年は就労希望者のみ）では、個に応じた就業体験（インターンシップ）

や現場実習などを、関係諸機関の御協力を得ながら実施することができた。

- ③ 高等部理療科では、国家試験の合格に向けた補習、個別指導などを長期休業日中や放課後に実施した。卒業生に対するアフターケア（国家試験対策を含む）を随時行った。

オ 特別活動

- ① 宿泊行事は実施場所や日程の変更など、感染症対策を講じながら実施した。各行事は感染状況に応じ、移手段の変更や会場の人数制限などを工夫した上で行った。コロナ禍を契機に精選及系統性を踏まえた学校行事の在り方について検討を開始した。
- ② 他校・園との交流及び共同学習は、対面及びオンライン形式にて実施した。オンライン形式では、時間や場所を問わず交流及び共同学習ができた。
- ③ 中学部及び高等部では、感染症対策を十分に講じながら部活動を実施した。各種大会では、日頃の成果をいかに発揮することができた。

カ 寄宿舎における指導

- ① 一室あたりの人数の縮小や生活日課の一部変更を継続して、寄宿舎運営を行った。集団活動や舎生会活動は、自治的活動のねらいが達成できるよう形態を工夫して実施した。
- ② 保護者参観を通して保護者との、島しょ生連絡会を通して島しょ出身生の在籍校との共通理解を図ることができた。

キ ICT機器の活用

- ① 各種行事において、児童・生徒へのオンライン配信及び保護者へのオンデマンド配信を実施した。また、希望する児童・生徒に対するオンライン授業を実施した。今後も、ICT環境整備と利活用の両面で更なる充実を図る。
- ② 中学部及び高等部の希望生徒に対して、慶應義塾大学「PDF版拡大図書に関する調査研究」の一環として、教科書デジタルデータを提供し、学習面での活用を図った。

2 地域と共に成長する

ア 理解啓発と情報発信

- ① 幼児・児童・生徒同士の交流については、感染症対策を講じながら実施した。
- ② 学校Webサイトは定期的に更新した。主に教育活動の紹介を行った。また、学校公開は、感染症対策を講じた上で年2回実施し、39人の参加であった。
- ③ 八王子市と西八王子駅周辺の街づくりについて協議し、ハード、ソフト両面におけるバリアフリー化について情報を提供した。

イ センターの機能の発揮

- ① 乳幼児教育相談は感染症対策を講じながら実施した。のべ相談人数は72人（3月現在）であった。また、育児相談通信等を10回発行し、学校Webサイトにも掲載した。
- ② 関係機関からの相談は、電話や訪問等を含めて134件（3月現在）であった。今後も視覚障害教育の高い専門性に基づく丁寧な助言・支援に努める。
- ③ 卒業生を対象とした理療の技術向上を図る研修は、感染症対策を講じながら月1回実施した。

3 教職員の力量を高める

ア 人材育成

- ① いじめ・体罰に関する研修、いじめ実態調査の結果報告を実施し、いじめ・体罰の未然防止と人権尊重の精神に基づく指導に反映させた。
- ② 各学部で「授業改善推進プラン」を作成し、授業改善に努めた。相互に年次研修や授業見学などを実施し、次年度の年間指導計画に反映を行う。
- ③ 寄宿舎連絡会を定期的に実施するとともに、年間2回程度、担任とのケース会を実施し、寄宿舎と学級担任・学部との密な連携と確実な情報共有を図った。
- ④ デジタルサポーターと連携を図り、ICT機器を活用した機器に関する研修を実施した。
- ⑤ 職員朝会や職員会議、サービス事故防止研修等を通して、全教職員がサービスの厳正に十分留意して、職務を遂行することができた。
- ⑥ 校内研究は、研究テーマを「視覚障害教育の専門性の向上と継承～創意工夫を凝らした実践の集約と分析を通して～」とし、教科、領域等のグループに分かれて研究を進め、今年度の研究紀要を作成した。特別支援学校教諭免許状（視覚障害領域）は、引続き全教員取得を目指す。

イ 組織運営

- ① 各業務の効率化を図り、教職員の定時外在校時間は昨年度に比較して改善した。次年度は、業務の標準化に向け組織の再編を行い、一層の改善に向けて取り組む。
- ② 学校運営連絡協議会、児童・生徒、保護者による様々な意見や評価をいただいた。今後は、各意見や評価を検証し、学校運営、教育活動等の更なる充実・改善を推進する。
- ③ 予算や学校徴収金を適正かつ効果的に執行・活用した。日々の検針・点検を通して、施設・設備の保全と環境保護・省エネルギーに取り組んだ。

ウ 八王子盲学校の「未来の創造」

- ① 校舎改築検討委員会を構成し、改築校舎の配置等の検討を行った。
- ② 校舎物品の整理は、断捨離日として全校的に物品整理を行う取組を年5日設定した。近隣の運動施設や学校と連携を図りながら、体育活動等の教育活動における代替措置に向け準備を行った。

II 学校評価アンケートの結果

(1) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- ・ 7月 中学部・高等部生徒 対象：33人 回収：22人 回収率：66.7%
- ・ 7月 保護者 対象：39人 回収：29人 回収率：74.4%
- ・ 7月 地域住民 対象：40人 回収：21人 回収率：52.5%
- ・ 7月 教職員 対象：82人 回収：82人 回収率：100%

(2) 評価結果の概要

① 学校経営（5項目）

- ・ 5項目中3項目は保護者・教職員共通、2項目は教職員のみでの評価である。
- ・ 保護者・教職員共通の3項目はすべて肯定的評価が80%以上だった。
- ・ 「教職員のライフ・ワーク・バランスの取組」「組織的・効率的な運営」はともに向上が見られた。

② 学習指導（5項目）

- ・ 5項目中4項目は保護者・教職員ともに肯定的評価が80%以上だった。
- ・ 保護者・教職員の肯定的評価がともに80%以下だった項目は「学部間の連携・継続した指導」だった（保護者79.3% 教職員78%）。とくに教職員の加重平均は1を下回った（0.7）。

③ 生活指導・安全教育、進路指導（6項目）

- ・ 6項目中5項目は保護者・教職員ともに肯定的評価が80%以上だった。
- ・ 保護者の肯定的評価が80%以下だった項目は「いじめ・自殺未然防止の取組」だった（75.9%）。

④ 外部対応・啓発活動（2項目）

- ・ 2項目中1項目は保護者・教職員ともに肯定的評価が80%以上だった。
- ・ 保護者の肯定的評価が80%以下だった項目は「ホームページの掲載内容」だった。同項目は加重平均1を下回った（0.82）。

(3) 評価結果の分析・考察

昨年度に引き続き、加重平均を用いて分析を行った。加重平均が1を下回った4項目（学部間の連携・継続した指導、ホームページの掲載内容、教職員のライフ・ワーク・バランス、組織的・効率的な運営）に焦点を絞って分析・考察を進めた。

III 重点目標・数値目標の結果

※ 評価の凡例…◎：目標を越えて達成、○：おおむね達成、△：未達成

ア 幼児・児童・生徒理解			
①学校生活支援シート、個別指導計画作成時の保護者参画	100%	→100%	○
②一貫した指導のため、引継事項の明確化と確実な引継	他学部参観 引継ぎ会の設定	→計画通り実施	○
イ 学習指導			
①日本の伝統・文化教育、環境教育の推進	各学年1回以上	→実施	○
②主権者教育の推進（公共及び特別活動を中心に実施）		→計画通り実施	

幼 児 ・ 児 童 ・ 生 徒 の 確 か な 成 長 を 支 え る	③読書活動の言語活動の充実	図書館だより・コラボ給食(3回) 委員会活動・弁論大会(中・高) →計画通り実施	○
	④高等部理療科3年生による臨床実習	校内:週5日、校外:年1回 →校外については中止	○
	⑤自作教材の作成と活用	校内計画通り実施	○
	⑥視覚障害スポーツに関する授業(学校2020レガシー)	全員2点以上 →全員2点以上 小学部4年以上:年2競技以上 →年3競技実施	○
	⑦SOSの出し方に関する教育	→計画通り実施	◎
	⑧点字コンテスト・漢字コンテスト	各年2回 →各2回	○
	⑨実用英語技能検定、日本漢字能力検定、珠算能力検定、 情報処理検定等の受検の推奨	年延べ20名 →17人	△
	⑩各種スポーツ大会、作品展示会、音楽発表会等への参加	年延べ50名 →61人	◎
	⑪授業参観(道徳授業地区公開講座も含む)	年4回 →年6回	◎
	ウ 生活指導		
	①いじめ・体罰の状況把握、防止	年4回 →年4回	○
②セーフティ教室	年1回 →中学部1回	○	
③関係機関と連携した一泊二日宿泊防災訓練	年1回・中学部全員 →年1回・中学部全員	○	
④白杖歩行指導、一人通学指導、スクールバス乗車指導	随時		
⑤特別食の提供(アレルギー対応食含む)	関連事故発生0件 →事故0件	○	
⑥寄宿舎連絡会による共有	月1回 →月1回	○	
エ 進路指導			
①職場体験学習	小学部5・6年:年1回 →1回	○	
②保護者対象進路学習会	年1回 →1回	○	
③就業体験(インターンシップ)	中学部:年1回、高等部普通科 →中学部1回、普通科18回	○	
④あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験合格	受験者全員 →受験者全員	○	
⑤放課後及び長期休業日中の補習	年80回 →120回	◎	
オ 特別活動			
①儀式、文化、集団宿泊的行事の円滑な実施	通年 →通年	○	
②交流及び共同学習(八王子ふたば保育園、八王子市立散田 小学校、館小中学校、横浜市立盲、近隣の高等学校)	幼稚部交流:年5回、その他行事 →幼稚部19回 相互交流参加:各年1~3回 →相互交流4回	◎	
③関東地区盲学校フロアバレーボール大会、水泳大会、卓球 大会、陸上競技大会	各年1回 →各年1回	○	
④東京都障害者スポーツ大会(陸上競技、STT)	各年1回 →各年1回	○	
カ 寄宿舎における指導			
①舎生会活動(自治的な活動)	役員会:月2回 →月2回	○	
②寄宿舎参観週間の実施、寄宿舎保護者会の実施	三人行事・季節行事年7回 →年7回	○	
③島しょ出身生の在籍校との連絡会	年1回 →年1回	○	
	年4回 →年4回	○	
キ ICT機器の活用			
①一人1台端末を活用した授業	各学部10回以上 →随時 回	○	
②教科書デジタルデータの活用	希望者全員 →希望者全員	○	
③点字ディスプレイの活用	希望者全員 →希望者全員	○	

(2) 地域と共に成長する	ア 理解啓発と情報発信		
	①交流及び共同学習（八王子ふたば保育園、八王子市立散田小学校、館小中学校、横浜市立盲、近隣の高等学校）	〔(1)才②の再掲〕	
	②副籍制度の活用（特に直接交流）	小・中学部生の40% →45%	◎
	③本校及び視覚障害教育に関する情報等の発信	資料等送付先1万か所 →1万か所以上	◎
	④ホームページの充実・更新（行事、学習内容、最新情報）	年80回 →74回	△
	⑤学校公開、あいサポート研修会への参加者	延べ50名 →48名	△
	⑥外部機関からの視察依頼・協力依頼への対応	随時 →随時	○
	イ センターの機能の発揮		
	①育児相談	年延べ30名 →43名	◎
	②地域の幼稚園・保育園、小・中・高等学校等への支援	年30回 →104回	◎
③卒業生を対象とした鍼実技等の研修	月1回 →月1回	○	
(3) 教職員の力量を高める	ア 人材育成		
	①個別のケース研究会の実施（寄宿舎を含む）	月1回 →月1回	○
	②全教員の研究授業と評価	年1回又は所定回数 →75回	○
	③授業改善推進プランの作成、授業研究連携校との相互連携	年5回 →年9回	◎
	④ICT推進部の設置	4月 →設置	
	⑤ICT機器を活用した授業の学習効果の検証	年3回 →年3回	○
	⑥服務事故防止研修	年10回 服務事故ゼロ →年10回	○
	⑦特別支援学校教諭免許状（視覚障害領域）	特別支援教諭取得90%以上 視覚障害領域単位取得80% →82%	○
	⑧新転任研修	年40回 →年46回	◎
	⑨自立活動の内容に関する校内専門研修	年4回 →年4回	○
	⑩学部研究会	月1回 →月1回	○
	⑪全校教職員対象研修会	年1回 →年1回	○
	⑫研修報告会	年1回 →年1回	○
イ 組織運営			
①経営会議の設定	週1回 →週1回	○	
②主幹・主任連絡会（主幹教諭主催） 校務分掌組織、校務の効率化の検証（会議時間、回数等）	年5回 →年1回	△	
③予算調整会議による計画的な執行管理（公費、私費）	年4回 →年4回	○	
④電子起案率の向上	90%以上 →93.6%	◎	
⑤「定時外在校45時間/月」超過者	15%未満 →18%	△	
⑥開かれた学校運営連絡協議会	教職員全員参加型：1回 →1回	○	
⑦保護者学校評価（アンケート）	回収率90%、満足度80% →回収率74.4%、 →満足度86.3%	△ ○	
ウ 八王子盲学校の「未来の創造」			
①校舎改築委員会の設置 「本校の在るべき姿」「幼児・児童・生徒の理想的な生活空間の在り方」の構想 新校舎の施設・設備の検討に係る関係部署との連携	4月 月1回開催 →月1回開催 通年 →通年 通年 →通年	○ ○ ○	
②仮設校舎建築前に想定される施設・設備の解体・撤去に係る対応必要な対応 校内物品の整理・代替措置の想定	通年 →通年 月1回設定 →月1回	○ ○	

II 次年度以降の課題と対応策

1 視覚障害教育の専門性の継承とデジタル活用

若手教員や他校種からの異動教員に対しては年間を通じて校内研修を実施し、視覚障害教育の基本を習得した。一方で年次研修及び全員研究授業では互いに授業を見合う機会が少なく、実践的な授業力向上への取組としては不十分な面があった。年次研修者に対する指導教員を明確に位置付け、OJTを充実させるとともに相互参観を組織的に位置付ける。

視覚障害教育における具体的な体験、視覚及び視覚以外の感覚の活用の重要性についてしっかりと継承するとともに、GIGA 端末、各種支援機器の利活用による個別最適な学びをさらに推進する。またオンライン等を活用した対話的な学び、協働的な学びの実践を積み重ねる。

2 校舎改築・仮校舎移転を契機とした環境整備と教育内容の充実

今年度は「断捨離」をテーマに校内環境の整備と移転に向けた不要物品の廃棄を行った。また、雨漏りの補修や教室内什器の整備、清掃などを適時行い、校内安全・衛生への意識を高めた。次年度以降、仮校舎建設が本格化する中で、グラウンド・プールが使用できない期間となる。代替場所・手段の具体化と安全・安心な学習環境を確保に向け方策を講じる。

3 人権尊重を根幹とした生活指導 相談体制の充実の充実

今年度は体罰防止、いじめに関するアンケートを定期的実施し、何らかの記載があった児童・生徒については全ケース、管理職による聞き取りを行った。また、中学部・高等部生徒に授業評価アンケートを実施し、生徒の声を直接聞く機会をつくった。学校評価アンケートにおいて「相談できる大人がいない」と回答した児童・生徒も一定数おり、心理的な支援の構築が必要である。いじめ対策委員会、校内支援会議等で早期発見、早期対応をすすめるとともにカウンセラーを定期的に招聘し、希望者全員面接の機会をつくることで、予防的取組、相談体制を充実させる。

4 総合校としての学部間の連携・継続した指導、生活の力を育むための寄宿舎との連携した指導

今年度の学校評価に係る保護者アンケートでは、本項目についての肯定的評価が79%（昨年度63%）であり向上が見られた。しかし、学校運営連絡協議会において、質問が漠然としており、何を基準に学部間連携を図れたか答えづらい内容であったと指摘を受けた。判断の根拠を明確にし、焦点化することが課題である。次年度については、学部を越えた同一教科担当内での研究をすすめ、系統的な指導を目指すとともに、教員の学部間異動を促進し、指導の継続性や将来を見据えた指導の充実を図る。また、寄宿舎生活をとおして身に付ける力を明確にし、学校と寄宿舎が一体となって指導にあたるための学舎連携会議を位置付ける。

5 「開かれた学校」としての発信力の向上と視覚障害センター校としての地域との連携強化

学校評価アンケートにおけるホームページに関する評価が低かったことを受け、ICT部を中心に組織的にホームページの充実に努め、魅力ある学校を発信する。また、今後校舎改築期間に入ることから地域の方々との連携も不可欠となる。学校便り、学校運営連絡協議会、防災教育推進委員会等を活用して連携強化を図る。さらに臨床実習の機会も活用し、地域にある盲学校としての期待に応える。今年度ニーズの高かった地域の視覚障害児・者についての支援等、センター校としての役割を果たす取組を充実させる。

6 業務改善による教職員のライフ・ワーク・バランスの推進

今年度はタイムパフォーマンスの向上に向け「八王子盲学校働き方推進プラン」を掲げ、勤務外在校時間の削減に取り組んだ。結果教職員学校評価アンケートでは、“働き方改革の実現に向けての取組”の肯定的評価で令和3年度67・5%から今年度78%、“効率的、組織的な学校運営”で79%から87・8%の向上が見られた。来年度は校務分掌の再編を行い、業務の平準化に向けた取組と「働きがい」のある職場に向けて環境改善を図っていく。